

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2022. No.384 **7**
ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています



ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン
HOLPFI P.3

Contents

清家理事長「逆転しない正義」 P.2

フィリピン台風ライ支援報告 P.3

続報!ウクライナ難民緊急支援 P.4-6

安達スタッフのポーランド報告
月井ボランティアはオデッサに入る

皆さんの広場 (増田元名古屋学院大学教授)
ウクライナ緊急支援チャリティー P.7



「逆転しない正義」

「それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。この希望は失望に終わることがありません」ローマ5章3-5節

ハンガーゼロは7月から新年度を迎えました。皆様のご支援によって活動できますことを心から感謝申し上げます。

2月24日から始まったロシアによるウクライナ侵攻によって、3ヵ月で戦争犠牲者は民間人も含め3万人を超え、600万人以上の人々が祖国から近隣諸国に難民として逃れています。この戦争がいつ終結するのかまだ何も見えていない状況です。

この侵攻によって、世界の食料危機が盛んに論じられるようになりました。ウクライナから輸出される小麦はアフリカ、中近東、南アジアに送られていました。今、黒海の沿岸地域がロシアによって封鎖されている状態です。今より半年後、1年後にどのような影響が出てくるか本当に心配されます。

先日、テレビで「アナザーストーリー ゲルニカ」が放送されていました。これはパブロ・ピカソが描いたゲルニカをめぐっての番組でした。1937年スペインで内戦が続いていたとき、反政府側のフランコ軍を支援するナチスドイツがスペイン・バスク地方のゲルニカを空爆（世界初の無差別攻撃）し、多くの市民を巻き込んだ殺

りくをピカソ自身が「スペインを死に沈めた軍隊に対する憎悪を表現した作品」と語り、描いたものです。そこには炎に包まれて叫んでいる人、地面を這って逃げる人、殺された子どもを抱いて泣き叫ぶ人などがピカソの手法によって描かれています。戦争は多くの人の命を奪うだけではなく、その人たちが築き上げてきたものや人と人との関係を一切切切破壊していきます。しかし憎悪を憎悪のままに終わらせると、その次の世代、次の世代へと引き継がれ憎しみの連鎖は切れません。

アンパンマンの作者、やなせたかしさんは「逆転しない正義」というタイトルで以下のように書いています。「第2次世界大戦で中国に出兵したとき、『人間は食べなくては生きられないことと、正義は簡単に逆転する』ことを実感した。しかし、逆転しない正義が一つだけある。それは、どんな立場でも、お腹が空いた人を助けるということ。だからこそ、アンパンマンは逆転しない正義の味方として、たとえ傷ついたり、エネルギーが消耗しても、自分の顔を食べさせるのだ」。

冒頭の聖書の言葉は患難、困難があっても必ず希望にいたる、失望では終わらないことを示しています。

ハンガーゼロは逆転しない正義を実現するために、これからも活動していきます。私たちのスタッフは全世界でウクライナで今日も逆転しない正義の実現のために働き続けています。今年度もぜひご協力ください。

ハンガーゼロ理事長 清家弘久

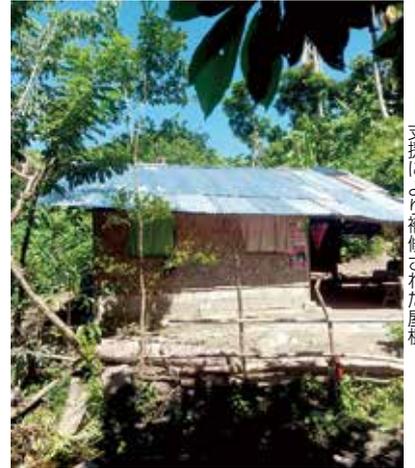


ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン

HOLPFI 台風ライ被災者支援プログラム



被災直後の村の様子。家屋とともに主な収入源であったココナッツにも大きな被害を受けました。



支援により補修された屋根

台風ライ(フィリピン名:オデット)被災者支援にご協力ありがとうございました。124万円のご支援をいただきました。2021年12月16日にフィリピン中部を襲ったこの台風は、最終的には210万世帯に半壊、もしくは全壊の被害を与え、2万1千人以上の人々が住む場所を奪われました。

農林業の被害も甚大で、2014年の台風の被害から再び大きな被害を受けることになりました。

台風が去った直後から情報収集に努めましたが、大規模な停電が継続していたために時間がかかり、私たちが全体の概要を把握できたのは年末になってからでした。

被災地が広範囲に亘っていて、私たちのように小さな団体が出来る役割は限られています。もっとも大きな被災をし、その時点で外部からの支援が十分でないとの情報を現地で活動していたHOLPFI理事ベー氏から受け取ったことで、パラワン島口ハス市のプロクゼニア村を支援する事になりました。

現在も復興の努力は継続しています

12月末の時点で現地ではわずかな食料支給以外に政府から復興に関しての支援はありませんでした。対象地域でもっとも必要とされていたのが家屋の補修でした。ほとんどの家が屋根を失っており、ブルーシートを張って夜露をしのぐということも出来ない状態でしたので、全半壊の家屋復興に合計40軒に屋根材の支援を決定しました。

2月7日、コロナの隔離政策が続く中、エバスタッフが現地を訪問し状況を確認して復興資材を手渡すことが出来ました。地域の人々の主な収入源だったココナッツも大きな

被害を受けていました。

5月末の時点でのコミュニティの様子ですが、復興の具合は、元々の被災の大きさによって家庭ごとに違いはありますが、日本の皆様からの支援を足がかりに復興の努力を続けておられます。

支援概要: 3M 波板、傘釘、チェーンソー用燃料

2年ぶりに戻って環境を整えています

私たち(酒井保&慶子)は4月13日にフィリ

ピンに戻ることが出来ました。まだ完全

には隔離政策が解除されてはいませんが、マニラはほぼコロナ前に戻っています。

2年間放置していた家(マニラ/カラ

パン)の片付けを手始めに、ビザの再取得

の手続きの開始や業務環境作りを進めています。

生活面では、乗り物のルートが変更になっていたりな

じみの店が閉店していたりと、日本では判らなかった様々

な変化に戸惑いもありますが、今は日本人が運営するSNS

グループサイトもあり、そこからも情報を得ながら適応を

進めています。



エバスタッフとHOLPFIベー理事



イエス・キリスト エクレシア よろこび研究会

真理はあなたを自由にします。ヨハネ福音書8章32節

— この御言葉を中心として「よろこび」を学んでいます —



真理のことばで“よろこび”をお届けしています。

- ① 聖書、みことばをわかりやすく
- ② 日常生活に適用できるように
- ③ より実践的に

毎月新たな聖書箇所を読み、お一人お一人の状況に照らしつけてメッセージをしていきます。初めての方でも大丈夫です。

共に学び、よろこびを探求しましょう。

メッセージ: 奥田英男 【参加自由・無料・席上献金有り】



<http://yorokobi-lab.com/>

Info@yorokobi-lab.com 042(553)0511 (オクダ建設内)

刻々と変化する状況とニーズに応じて

ウクライナ難民緊急支援のために温かい支援をありがとうございます。時間の経過とともに活動地のポーランドやウクライナ国内の状況は変化しており、ハンガーゼロの活動もできるだけ人々のニーズに合わせて柔軟な対応が求められています。派遣した安達スタッフと月井サムエルボランティアからの続報をお届けします。

【報告：安達スタッフ】

5月16日から6月3日までハンガーゼロのウクライナ緊急支援として、隣国のポーランドに行きました。

2月24日のロシアによるウクライナ侵攻以来、たくさんのウクライナの方々ポーランドをはじめヨーロッパ各国への避難を余儀なくされています。成人男性は国内に残って戦地に派遣されているために、その多くは女性と子どもたちです。私は今回このような難民となった方々と接する機会がありました。

日本デスクに10名の渡航希望者

ポーランド東部の町プシミシエルにはスーパーマーケットを居抜きにした避難所があります(通称：テスコ)。かつて最大2,000人の難民がここで生活していました。この避難所の特徴は次の渡航先への手続きができることです。ヨーロッパのさまざまな国がこの避難所に渡航デスクを出して渡航の手伝いをしています。ハンガーゼロも日本デスクを設置して日本への渡航希望者を募った結果、現在までに10名の応募がありました。人々が渡航先として日本を選ぶ主な理由は、ロシアから少しでも離れたいたいというものでした。日本とロシアの地理的距離は実際は遠くはないのです

が、陸路で侵攻されるという恐怖がウクライナの人々中に渦巻いているようでした。

避難所は多くの人が入りし賑わっていますが、独特の雰囲気がありました。緊張感が漂い、人々の不安な顔で満ちていました。そこでは食料や、寝具、医療品など生活に必要なものは全て無償で提供されます。しかし難民となった方たちの求めるものは安定や安心であり、物質だけで解決できる問題ではないことを痛感させられました。

今日、明日の保証がない中での生活は、本当に恐ろしいものだと思います。私たちが海外で一文無しになり泊まる所もない場合などと比べようもないほど、はるかに不安で厳しい状態を強いられています。家族との安定した暮らし一切を奪うのが戦争であり、紛争です。

避難所で子どもたちを対象とした活動の一つとして、テントを設置してその中にお菓子やおもちゃをたくさん置いている所があります。そのテントの前



避難所の中での子どもケア



避難所内に設置した日本デスクで難民からの相談を受ける月井ボランティア



中京医薬品から送られた傷消毒液を支援倉庫に、ウクライナ語の説明書も加えました

私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。

Health & Natural Beauty
LONG LIFE GROUP ロングライフグループ
大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階
東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
ロングライフグループ拠点: 北海道 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 千葉 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 京都 / 大分 / 沖縄 / 中国 (青島) / 韓国 / インドネシア (ジャカルタ)

0120-550-294
受付時間 9:00~18:00
年中無休



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘

にはお母さんたちがくつろげるスペースがあり、子どもたちはテントのお菓子やおもちゃを見つけるとすぐに笑顔になって駆け寄って来ます。けれどお母さんの多くに笑顔はありません。

しかし、子どもたちが楽しそうにしている姿を見ているうちにお母さんたちの表情も柔らかくなり、私にいろんなことを話してくれました。そしてテントを去るころにはみんな笑顔になって帰って行かれ、私も本当に嬉しかったことを覚えています。



安達スタッフと日本の渡航の申請を行ったウクライナ難民

【首都ワルシャワで渡航申請手続き】

プシミシェル避難所で日本デスクに来られた渡航希望者をワルシャワの日本大使館にお連れしました。大使館では一人ひとり渡航のための面接が行われますが、とてもリラックスした雰囲気、時には日本のアニメや漫画の話をして難民の方々の緊張をほぐしてくださっていました。現在までに10人のビザが発給されて、すでに日本で生活を始めています。

難民との交流で厳しい現実を実感

ビザ申請が終わった後は、韓国国際飢餓対策機構が支援するホステルに滞在しますが、ある日そこを訪問すると、日本への渡航希望の家族がボルシチをごちそうしてくれました。限られた食料の中から分け与えてくださったことが本当に嬉しかったです。彼らはロシア語で話すので、出会った当初はコミュニケーションをとることが非常に難しく、スマホのアプリを使って会話していました。しかし一緒に大使館に行ったり、食事をしたりする中でだんだんお互いの思いが伝わっていくのを感じました。このような交流を通

して、改めて戦争の悲惨さを実感しました。私たちは民族も言葉も違いますが、ウクライナ人とロシア人は同じ民族で同じ言葉を話す関係です。しかし分かり合うどころか殺しあうことになってしまっています。戦争がいち早く終わることと、難民となった方たちのこれからの生活が少しでも良いものとなるように願います。

ハンガーゼロの支援でさらに数名がビザの発給を待っています。人々の日本での生活も支援していきます。

難民への支援のあり方は様々

【報告：月井ボランティア】

ウクライナでの戦争の状況は日々変わります。そのため、難民の人たちの状況や必要も変わっていきます。

「今すぐに、どこでもいいから避難しなくては！」という緊急性のあるケースは少なくなりました。逆に避難を余儀なくされているけど、自分ももっとも避難しやすいところ、安心して過ごせるところはどこかを決めてから道筋を立てて脱出するケースに多く出会います。

自分の家や街を完全に失った東部地域の人、次は自分の街に攻めてくる可能性が高い、と警戒している人、この国にいたことがそもそも危険だと考える人など、様々です。避難する人たちにとって文化的に生活しやすいのはヨーロッパですが、ヨーロッパはすでにさまざまな国の難民を受け入れてきた経緯があり、難民による問題をたくさん抱えています。

日本はどうかというと、私の認識ではこれだけオープンに難民（日本では避難民）を迎えたのは国としても初めてで、いろんな自治体や企業が手厚い対応をしようと工夫してくれています。そのため、言葉や文化の壁などの難しさがあっても日本に行きたいという人たちがたくさんいます。

そのため、ハンガーゼロは、Ukraine To Japan という日本人ビジネスマンの有志の人たちと協力しながら、日本への避難をお手伝いしています。避難民の保証人になることのハードルの高さや、無償のアパートの確保など、課題が多いですがたくさんの方々からの支援を受けて順調に進行しています。（次ページに続く）



備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう

救岳鳥
Kyu-Can-Cho

皆様から回収された救岳鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147

栃木県那須塩原市東小屋295-4

TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

検索



㊤応急修理中の車 ㊦物資を託してくれたイギリス人のグループ ㊧無事にウクライナ・オデーサの教会に届けました。(月井サムエル)

支援物資を託してくれたイギリス人

ウクライナのオデッサには日本人宣教師の船越先生の教会があり、ウクライナの人々への支援をされているので物資を持っていこうと決めたのはいいものの、週末ほどの倉庫もしまっていて、肝心の届ける物資が何もありません。困っていると友だちが会ったイギリス人が、ウクライナに持って行って欲しいと、食品や発電機などの貴重な物資を献品してくれました。ハンガーゼロから飲料水の物資を追加して出発です。

途中車の故障があり、通りがかりの村の修理屋さんに直してもらいました。修理屋の見習いの青年が、自分は大学生で今は授業はオンラインで出て修理の見習いもしていると話してくれました。戦争について尋ねると、「この村の方にもミサイルは飛んでくるけど、ほとんどがその前に撃ち落とされるから大丈夫だよ」と言いました。サイレンの音が聞こえても誰も慌てる様子はありません。

オデッサではハンガーゼロの通訳としてこれから一緒に活動する王さん(写真)という台湾人をまずはピックアップしました。彼はウクライナ語、ロシア語、日本語、英語、台湾語が話せます。



王さんと一緒に船越先生の教会に物資を届けました。来週、教会の方々がオデッサの隣にある戦闘地、ニコライエフにいるもっとも必要な方々に物資を届けてくださいます。

「生きたい」の一言に涙しました

続いて、オデッサ駅に日本への渡航希望者に会いに行きました。姉(21)と弟(15)の兄弟で、お母さんは泣きながら送り出しました。(写真㊤上)その後は、この2人と王さんに乗せて、ポーランドに戻りました。ウクライナのホテルに泊まったり避難所テスコに泊まったりして3日かけてワルシャワに戻りました。15歳の弟に日本で何をしたいか尋ねてみると、「生きたい」と一言で返ってきました。ディズニーラ



ンドに行きたいとかそういうコメントをイメージしていた僕はショックで運転しながら泣いてしまいました。

ワルシャワで大使館に難民ビザを申請しに行き、渡航希望者と日本にすでにいるウクライナ人を電話でつなげて情報共有を図りました。KFHI(韓国国際飢餓対策機構)が運営し、ハンガーゼロも資金提供をしている一時避難所や Ukraine To Japan の方のアパートを難民ビザ取得までの滞在先に利用させていただいています。

頂いた募金は次のように用いさせていただきます

- ①ウクライナ国境検問所(メディカ)近辺および一次避難所(ブジェミシル、コルチョバ等)での難民に対する活動支援
- ②ルブリン市で KFHI(韓国国際飢餓対策機構)と協力し開設した二次避難所の運営と活動支援
- ③ジェシェフ市の GEMの倉庫への日本からの物資輸送(パンの缶詰、医療品等)に協力、またポーランドで食料や日用品を調達し、ウクライナ国内への持ち込みを支援
- ④ウクライナ人孤児、アスリートの支援
- ⑤戦闘が終了後、ウクライナ国内の復興支援
- ⑥その他、状況の変化で緊急的に必要とされる支援

【ウクライナ緊急支援募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類
 ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記
 ②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用できます。



前列左から近藤スタッフ、増田さん、その後方にギャラリーのオーナーのピーターさん、ほかボランティアさん



本誌5月号でご紹介しました名古屋学院大学元教授の増田善治さんの「ウクライナ緊急支援チャリティセール」(協力:せと銀座通り商店街ギャラリーNani)は、最終的に目標200万円を大きく超える2,835,252円の販売となり、ハンガーゼロに全額を募金してくださいました。

以下は広報の質問に対する増田さんの寄稿文です。



「この品物は買うのではなく…募金に対するギフトです」

Q 最初のきっかけを

ハンガーゼロの近藤さん(総主事)とは長年のお付き合いがあり、私の蓄音器コンサートによるチャリティー活動にも支援して頂いていました。昨年9月頃から名古屋学院大学の退職に際して、自分のコレクションを使った終活とボランティアについて相談していました。それで今年2月のロシアによるウクライナ侵攻に心を痛めている中で、新約聖書の黙示録22章11節が心に刺さりました。「世の終わりに、罪に汚れた者はますます罪に汚れた者となる。神のみこころを行う者はいよいよ神のみこころを行い」(要約)。それでどこか場所を借りてチャリティー販売をしようと思い、近藤さん、せと銀座通り商店街のギャラリー Nani さんらの協力で支援チャリティーセールが急遽決まりました。

Q チャリティーにはどんな方が訪れましたか

銀座商店街の皆様、大学の教職員の方々や友人たち、40数名の教え子たち、ウクライナ支援のコーヒー豆を提供された珈琲専門店のオーナー、蓄音器愛好家、珈琲ミル収集家、瀬戸の陶芸家など実に幅広いジャンルの方々と思い出深い一品一品を通しての趣味の世界を語る楽しいひと時とウクライナの平和を願う祈りの交流がありました。教え子の中には店内の珈琲ミルやカップを手に取り「私、これで飲んだことある」「このミル研究室で見たことあるから欲しい」と言って自分の過去とのつながりを再発見してウクライナ募金をするのです。一万円以上の募金をする機会が無かった方々も、募金する事により、プレゼントとしてお気

入りの品物を手にしてギャラリーを笑顔で去られるのです。

Q セールで心掛けられたことは何でしょう

趣味と支援を一生繋げる、これが全てです。私はセール期間中、可能な限りギャラリーに腰据えて来客の対応をしました。名古屋学院大学、金城学院大学とその他のボランティアの若者達に「これは増田のショップではないよ。皆さんで取り組むウクライナ支援なんだ」と共通のビジョンを分かち合いました。そして陳列されてある品物については、彼らが十分に説明可能なように私が時間をかけてトレーニングをしました。その結果、彼ら自身の中に蓄音器や珈琲ミルに関する興味や知識が増加した様子でした。彼らが蓄音器でSPレコード演奏し珈琲ミルで豆を挽く実演をする姿に私は何度もニヤリとしつつ、一ヶ月半の間、楽しんでセールに取り組むことができました。

Q 改めて気づいたことは

まずは、終活とチャリティーを掛け合わせ、共通したビジョンを持つチームワークでかなりの募金を生み出せるという事です。次に、この実践が多くの終活者の刺激となった事です。ギャラリーには「私も珈琲ミルや万年筆を沢山収集してます。ウクライナ支援の為に利用してもらえますか?」と色々な商品を持ち運んで来る方々も現れ始めました。そんな時には私からはすかさず「品物は出来るだけ一万円以上の価値あるものをお願いします」とちゃっかり依頼していました。

また、ギャラリーに来られた方には「ここは骨董品店ではありません。ハンガーゼロを通してのウクライナ難民への支援の募金をする所です。ですから、まず心の中でどれほど募金したいのかをお考え下さい。目前にある品物は募金に対するギフトです。」と繰り返し言い伝えました。そうすると、お気に入りの品物が無くても、かなりの募金をして下さる方々も大勢おられました。お一人お一人の与える心よって予想を上回る募金が捧げられました。関わって下さった全ての方々に感謝しつつ。

本文：増田善治さん





ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18ヵ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



西南学院大学で調印式
包括的な連携に関する協定

ハンガーゼロは、西南学院大学(福岡市早良区西新6-2-92)との包括的な連携に関する協定を締結しました。

5月23日、同大学においてG.W. パークレー学長と当機構清家弘久理事長が出席のもと「協定書の調印式」が行われました。協定期間は3年で、国際協力の理解を促進するために知的・人的・物質的資源を活用して相互に協力を行います。

大学との包括的協定締結は、東京基督教大学(2019年)、富山国際大学(2020年)に続き3例目となります。なお、翌24日には同大学において清家理事長の記念講義が行われました。

ハンガーゼロ海外駐在員短信

- ジェロム・カセバ(コンゴ民主) 活動地のコンゴ民主共和国とザンビアの訪問を終えて、6月15日に無事に帰国しました。
- 酒井保・慶子(フィリピン) 5月に再入国済み。
- 小西小百合(ボリビア) 3月に再入国済み。

美味しい備蓄食
「パンの缶詰」

長期保存可能な“やわらかい”防災備蓄パンです。いつでもどこでも出来立ての柔らかいパンが食べられます。味はストロベリー、オレンジ、ブルーベリーの3種類を各1缶ずつで1セット。保存期間は製造から37ヵ月。



1セット1260円、送料込み
2,000円でお届け。
(沖縄・北海道は500円加算)
2セットの場合は送料分から400円割引。3セットは送料分から1,000円割引。
お支払い：後払いで以下①②
①銀行振り込み ②郵便振替
お申し込み：
(株)キングダムビジネス
スマートフォンは右のQRコードから
電話注文：06-6755-4877



「地球家族2023年版」
カレンダーを制作中
今年もお楽しみに!



Hunger Zeroの SNS ツーシャル ネットワーキング サービス

YouTube Facebook Twitter Instagram LINE

国際協力に参加する活動の第1歩目として... **YouTubeのチャンネル登録や各種SNSのフォローをお願いします!**

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

フリガナ	氏名	
(TEL)		
住所		〒
申込日		年 月 日 NL384号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください	
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 (1000円) ②一時募金として 円協力します。	
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 (500円)	
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。	
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落し申込書を送って下さい。	
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。	

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **5231** 口

■ 発行者 清家弘久

■ 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
 - ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- (広島)
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- (東北)
- 愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
- USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,410,436ポイント(円)のご協力(23,576件)がありました。Tポイント募金で検索。
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。